

DAIDO CAMPUS

大同工大キャンパス

No.46 2003.11

大同工大に期待する

コンカレントで人間性豊かな
適応力のある人材育成を

株式会社 大林組 専務取締役 名古屋支店長

中谷 章 氏インタビュー

日本建築学会優秀卒業論文賞受賞

この快挙に澤岡学長が「学長賞」を授与

学生の活躍

西日本インカレ ハンドボール部 輝く準優勝
オセアニアカヌーポロ選手権 見事準優勝

元気印の卒業生

中京テレビ放送編成局編成部 宮脇里織氏

コンカレントで人間性豊かな 適応力のある人材育成を!

組織の“すき間”を超えてこそブレークスルーが可能となる!

我々も日々、熾烈な競争に さらされています。

かつて84兆円あった日本の民間設備投資は、平成15年度には53兆円にまで激減した。一方、建設業者やその従業員数は減っておらず、業者間の競争は当然激烈を極めている。

その中で中部地方は、2005年の万博や中部国際空港開港といった国家プロジェクトと、世界企業トヨタが牽引力となって、他の地方よりは恵まれている。「大林組の支店長会議でも、北海道、中国、四国など他の支店より名古屋支店の営業成績はよいのです」と明かされる。

だがポスト2005年には中部地方には何もない。

都市の再生事業こそ、 これからの時代の核となる大事業です。

今後の社会建設の核となるのは、都市の再生事業。大都市・名古屋の中でそれぞれの地域が特色を持った、独特の機能に特化した都市に生まれ変わることが強く求められてくる。ただ、「一口に都市の再生といっても、相当広範囲で複雑な事業となっており、建築だけでは到底手におえるものではなくなっています」と指摘される。



株式会社 大林組
専務取締役名古屋支店長

中谷 章氏

インタビュー室へ入って来られた途端、部屋の雰囲気が一変と張り詰めた。視線はあくまで温和ながらも圧倒的な存在感、ゆったりとした口調で示唆に富んだお話しをたっぷりお聞きすることができた。

コンカレントエンジニアリングこそが 複雑な事態に対応できるのです。

新語「コンカレントエンジニアリング」。製品やシステム開発において、設計技術者から製造技術者まで全部門の人材が集まり、諸問題を討議しながら協同して同時に作業にあたる生産方式のこと。

「ここから生れる他社には真似のできない『複合技術力』こそが、企業の発展を可能にします。」

コンカレントが組織の “すき間”を埋め、ブレークスルーを 可能にするのです。

企業も大学も縦割り組織の“すき間”が大きな問題だ。それをどう埋めるかが今経営の最大のテーマとなっている。「コンカレント」こそが、組織の“すき間”をうめ、企業のブレークスルーを可能とし、新たな複雑な事態にも対応できる力をつくることができる。そのために「私は常々『大林組を潰せ!』と言っているのです」と。今や古い伝統、昔ながらのやり方を潰すところから「新生大林組」も展望できる。

大学も今こそコンカレントを!

学科を横断した教育体制づくり、学生達との双方向コミュニケーションといった大学教育改革が、多くの大学でなかなか進んでいない。大学が少子化時代と厳しい生き残り競争時代を迎えている今、コンカレントでできなければ、競争に生き残れない。

「学科内はもとより学科間でヨコの連絡が殆どなく、学生と教師の双方向コミュニケーションも少ない状況では、“単品”的な人間を生むだけで、マルチ人間の育成は無理です」と強調される。

大同工大には、人間性豊かな 適応力のある人材の育成を期待します。

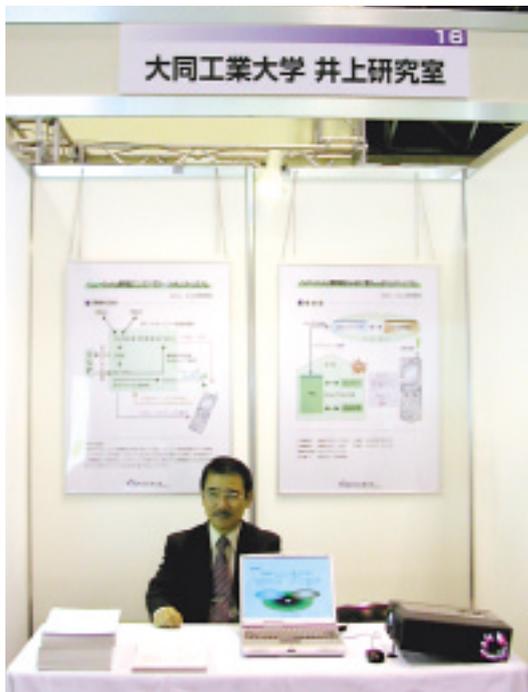
大林組が大学・大学院の卒業生を採用するのは、即戦力というより15～30年後の企業を展望して、将来を託すことのできる人材だ。「企業の将来を担う人材に求められる資質は、幅の広い、人間性豊かな、あらゆる面に興味をもつことです」と強調される。そういう資質を有する人材には「適応力」が生れる。学力のある学生はいっぱいいるし、大同工大生の学力も他大学に劣ってはいない。しかし企業社会では、学力は必須ではあるが、学力だけではだめなのだ。

「大同工大は、高校を持っていることをプラスに変えることです。高校、大学で7年間、大学院も入れば9年間。その間に『コンカレント』を柱に豊かな人間性を持つ学生の育成に邁進すれば、必ずや成果が出るはず。私たちは、そういう人材に我が社の未来を託したい。」と結ばれた。

(大林組名古屋支店専務応接室でのインタビューをもとに構成)



大林組が施工した「オアシス21」



大同工大産学連携の 先進研究を展示

産学交流テクノフロンティア2003出展

10月8、9、10日の3日間、名古屋市吹上ホールで、『産学交流テクノフロンティア2003』が開催され、本学も愛知、岐阜、三重の主な大学とともに産学交流センターと6人の先生方の研究室で先進的研究成果を展示した。

大同工大の展示ブースは全部で7つ。まず産学連携共同研究センターのブースでは、その設立の趣旨と、産業と共同研究を展開している合計10の分野の紹介、そして12ある共同研究設備を紹介した。

展示に参加された先生方の研究室は6つ。情報学科の井上茂樹先生の研究室は、「DIY型ホームセキュリティ」のシミュレーションを。電気電子工学科の佐藤義久先生の研究室は、「都市型風力発電の実用化開発」の実態を。堀尾吉巳先生の研究室は、「プラズマCVDによる炭素材料の作成」過程を。情報機械システム工学科の西堀賢司先生の研究室は、「LED光源によるミラー傾斜角度の2次元計測」を。機械工学科の堀美知郎先生の研究室は、「固体高分子燃料電池のセル管理に係わる研究」を。そして建築学科の山本俊彦先生の研究室は、「耐久1000年のステンレス鉄筋コンクリート構造」を、それぞれ展示された。



伊勢湾水理環境実験センター 一般公開に協賛展示

都市環境デザイン学科の

舟渡、大東、堀内各教授、棚橋、嶋田各講師が実験展示で参加

小中学校が夏休みに入ってからすぐの7月25日、名古屋市南区の国土交通省中部地方整備局、名古屋港湾空港技術調査事務所にある伊勢湾水理環境実験センターの一般公開が行われ、本学都市環境デザイン学科の4人の先生方が特別協賛展示で初参加された。

伊勢湾水理環境実験センターは、伊勢湾、三河湾の環境改善について湾内の「流れ」の面から研究調査するために、昭和49年に設置された施設。この一般公開には、夏休み中の小学生とその父母が訪れ、さまざまな展示を見学した。

本学の展示は4つ。まず棚橋先生は、「油で汚れた土、手を触れず5分でキレイに見せます」という模擬実験。大東先生は、濃尾平野の地盤が沈下する仕方を実験層を使って実演。堀内先生は、子供たちに南区で伊勢湾に流れ込む川の水の汚れを検査してもらうコーナーを設営。舟渡先生と嶋田先生は、3次元CADを使って名古屋港をエコタウンにするとうなるかをコンピュータ映像でシミュレーションされた。

当日は、中日新聞、中京テレビ、テレビ愛知などが取材に訪れた。なおこのイベントに協賛展示した大学は本学だけであった。



環境デー・なごや2003 都市環境デザイン学科

大東研究室・堀内研究室 出展



カラッとした残暑厳しい9月7日、名古屋の栄、オアシス21と久屋大通公園で開催された「環境デー・なごや2003」に、都市環境デザイン学科の大東先生と堀内先生の研究室が、今年も出展された。

出展会場は、地球環境保全のための先進的なライフスタイルと環境産業の取り組みを体験する久屋広場。大東先生の研究室は、「ミニ実験装置を用いた液状化現象のデモンストレーション」と、畳素材を使ってフラワーポットを作る工房を設置。堀内先生の研究室は、名古屋の川の水を持ち込み、その汚染度を調査するコーナーを設置した。先生が陣頭立って参加者をブースへ呼び込み、研究室の学生たちが実演して見せたり、参加者に古い畳地を使ってフラワーポットを实际制作・体験してもらったりして、ホットなブースとなった。

受託研究

美杉村若者住宅建設基本構想
膨大な報告書を作成して完了!

前号で嶋田喜昭講師から紹介のあった三重県美杉村「公営若者住宅建設基本構想策定」研究は、本年8月、写真のような膨大な報告書を作成して研究を終えた。



建築学科光田助教指導の
卒業生の卒研論文が、
日本建築学会
優秀卒業論文賞受賞！

この快挙に澤岡学長が 「学長賞」を授与！



澤岡学長、光田先生とともに、左・黒田君、右・杉山君

去る9月5日、中部大学で開催された日本建築学会全国大会で、今年3月本学工学部建築学科を卒業した黒田健一君と杉山史典君の卒研論文が、優秀卒業論文賞を受賞した。その栄誉を称え、本学の澤岡昭学長が、10月8日、両君に学長賞を贈られた。

優秀賞受賞論文は、「高齢者施設の居室における介護臭の特性と脱臭方法に関する研究」と題して、高齢者の居室の臭気を調査・記録して、その特徴と脱臭方法の比較・検討を行った力作。

高齢化社会の進行とともに、高齢者施設の計画や安全面の研究は進んでいるものの、環境面、中でも空気質の研究は不十分なのが実情である。高齢者の居室の臭気には、大別して二つある。

- (1) 排泄物臭などの瞬時に拡散する臭気（拡散型）
- (2) 汗、体臭などが室内のいたるところに染み付く臭気（残留型）

この内、瞬時に拡散する臭気の特徴と対策は杉山君が担当。実験室や、施設の4人部屋にセンサーを設置し、便の臭気が拡散する特性を、脱臭機の有り無しで調べ、脱臭対策を検討した。一方の残留型臭気を担当した黒田君は、新築の特別養護老人ホームの16室で、臭気成分、臭気濃度、センサー値などを測定し、2～3ヶ月ごとに臭気の推移データを2年間に亘って蓄積し、臭気レベルとその要因を調査した。また、石膏ボード（一般的な仕様）の天井とゼオライトパネル（臭気の吸着を考慮した仕様）の天井の居室での臭気レベルの比較検討を行い、光触媒による臭気分解機能も兼ね備えたゼオライトが有効だと結論付けている。

黒田君は、期待していたデータが思うように出ず、他の要素も加味する必要が出て途中で方向転換したといい、杉山君は、老人のオムツ交換の臭

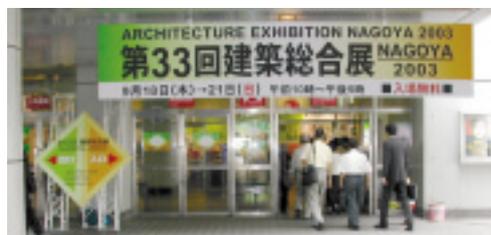
いを2秒ごとに収集してデータを集める研究での、エクセル8000行のデータに参ったそうだ。

黒田君と杉山君の快挙は、本学にとっても大きな名誉であり、10月8日、澤岡学長がその栄誉を祝して、二人に「学長賞」を授与された。年休を取って学長賞授賞式に本学を訪れた二人に澤岡学長は、その栄誉を称え、労をねぎらい、そして今後とも本学と太いパイプを持ちつづけようとエールを贈られた。

卒業後、黒田君は東京のミドリ安全エア・クオリティ株式会社に勤務。仕事はにおいを扱う会社の営業マン。大学の勉強が営業活動で生かすことができる目が輝く。今後もおいの研究を続けて光田先生に追いつきたいという。杉山君は浜松市の中村建設株式会社に勤務し、現在浜松市の浄化センターの建築に従事している。自分はずっと建築現場で仕事していきたいという。将来は老人福祉施設の建設を手がけてみたいと力強く抱負を語ってくれた。



第33回 建築総合展 大学・高専学生設計優秀作品展に 大同工大生の作品が入賞、展示される。



9月18日から21日まで4日間、名古屋市吹上ホールで開催された「第33回建築総合展NAGOYA2003」。その中で「大学・高専学生設計優秀作品展」のコーナーが設けられ、そこに学生の優秀な設計案が展示された。名古屋大、名古屋工業大、名城大、中部大の学生作品とともに、我が大同工大生の作品が展示された。

入選したのは、建築学科の石黒智也君。テーマは、「Morning Glory. Can you relieved?」で、朝に生き生きとした気力が湧いてくるような建築設計プランとなっている。

平成15年度

アメリカ短期留学

大きな成果をあげて無事修了

今年のアメリカ短期留学は、8月7日名古屋を出発、9月1日帰国までの25日間に亘って行われた。参加者は、男子学生24名、女子学生7名の学生31名。都市環境デザイン学科の棚橋秀行講師が団長、機械工学科井上孝司助教授が副団長、教務室小堺氏が引率で、総勢34名がオレゴン大学を訪れた。

午前中は授業、午後はアメリカの学生たちとパートナーを組んで語り合うコミュニケーションパートナー、スポーツ活動などで過ごし、夜はフリー。もちろん適宜オレゴンの観光も組み入れて、「アメリカ詰め・英語漬け」の日々を過ごした。そして帰路にはシアトルを訪れ、イチロー、長谷川が活躍するシアトルマリナーズの大リーグ観戦も楽しんで、9月1日全員無事に帰国した。

棚橋先生によれば、何より良かったのは、参加者全員に強い仲間意識が芽生えたこと。この期間に3人の学生が誕生日を迎え、そのパーティを学生たちが企画し大いに盛り上がった。さらにオレゴン大学最後の修了式では、31人を6つの班に分け、それぞれの班が趣向あふれる発表を展開した。英語劇、英語による相撲紹介、動物パントマイム、英語紙芝居、英語の替え歌などなど、オレゴン大学のスタッフにも大受け。その間、本学のパワーズ先生も毎日のように大学に顔を出され、何かとサポートして頂いた。

またオレゴン大学の広大で美しいキャンパス、様々の民族の学生たちが行き交うキャンパスを体験した学生たちは、いわゆる強烈な「異文化体験」となったようだ。

棚橋先生によれば、帰路シアトルマリナーズの本拠地、セーフコ・フィールドズでは、「大同工業大学」の横断幕が3回テレビに映し出されたとか。(もちろん英語の横断幕も準備)

帰国した学生たちは、出発前の不安感いっぱいの表情から、達成感いっぱいの表情に変わっていたのが印象的だったとは、引率の小堺氏。もうひとつ、アメリカではさすがの学生も携帯電話なしで十分生活できていたようだ。



平成15年度

体育大会、盛大に開催!

怪我人もなく、無事閉幕。

10月23日と24日の2日間わたって、学生会執行委員会主催の平成15年度体育大会が盛大に開催された。スポーツを通じて本学の学生同士、学生と教職員の親睦を図る秋恒例の行事。

滝春ラウンドでは、23日がソフトボール、24日がサッカー。石井記念体育館では、23日が昼間は3on3(バスケットボール)、夜は卓球、24日にはバドミントンの競技がそれぞれ開催され、腕に覚えのある学生主体に、競技によっては教職員もチームを作って参加、熱戦を繰り広げた。

優勝はじめ上位入賞チームには賞品が授与され、勝利の歓声に包まれた。





CLUB

DAIDO INSTITUTE OF TECHNOLOGY



第42回西日本学生ハンドボール選手権大会(西日本インカレ)

大同工大、輝く準優勝!

予選リーグを全勝で順当に決勝トーナメントに進んだ大同工大。準々決勝で中京大、準決勝で昨年苦杯をなめた福岡大を破り、初めて進出を果たした。決勝の相手は、過去41回の西日本ハンドボールインカレで、最多優勝回数24回を誇る名門、大阪体育大学。「伝統ある優勝常連大学を破れば大同工大の強さも本物だ」とばかりに、大同工大の大応援団が、緑スポーツセンターのスタンドに陣取って、試合前から気合が入っている。

12:10分試合開始。先取点を奪った大同工大が一気に6対2とリードを奪うも、大体大も追い上げて、前半は12対11と大同工大1点リードで折り返す。

後半は、取られたら取り返すという同点状態が長く続く。そして残り5分となったところで、大同工大がついに22対20と2点差をつけた。しかしここから大体大が驚異的な集中力を見せ、わずか4分で24対22と逆転。大同工大は残り2分からマンツーマンディフェンスに切り替え、激しく追いつがったものの及ばず、26対24、わずか2点差で敗れ、準優勝にとどまった。

しかし、けが人続出でまともな練習ができたのが西日本インカレ大会3日前という悪コンディションにも拘らず、1試合ごとにチームと選手が成長、初めて決勝に進出、王者大体大と死闘を繰り広げ、準優勝に輝いた大同工大の健闘は、大いに賞賛されている。

東海学生ハンドボール秋季リーグ、大同工大は惜しくも3位!

悔しい!ただその一言! 春のリーグ戦で初優勝、夏の西日本インカレで準優勝の勢いから、V2は射程圏内とみられていた秋季リーグ戦。大同工大は6チームと戦って全勝、残る宿敵・中部大学戦に勝つか引き分ければ優勝という有利な状況にいた。10月19日 日曜日、所は大同工大石井記念体育館。前半は12-8の4点リードで折り返す。

しかし後半、中部大の高低ミックスした攻撃を止められず逆転された。残り1分を切って1点差まで詰め寄ったが及ばず、結局29-28の1点差負け。大同工大、名城大、中部大が6勝1敗で並んだが、得失点差で名城大が優勝、2位中部大、大同工大は3位となった。

秋季リーグ優秀選手には、本学から太田純ゴールキーパーが選ばれ、得点王のタイトルは、45点をあげた本学の松本英司選手が獲得した。

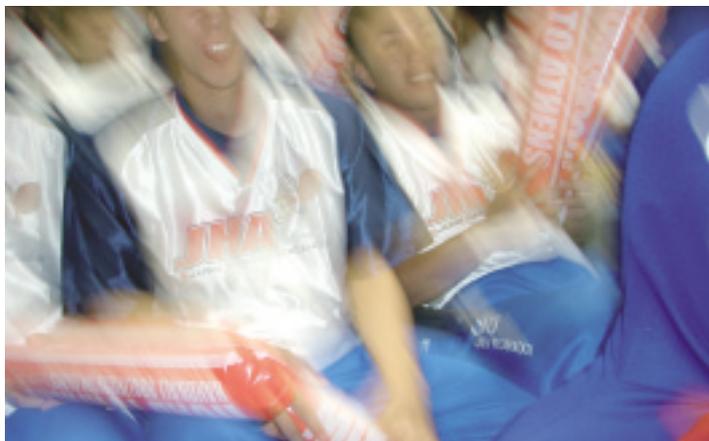
吹奏楽団、地域行事に積極参加! 今や地域の祭典に欠かせない存在に。



大同工大吹奏楽団は地域の各種行事に大忙しの秋となった。9月7日に白水小学校で開催された白水学区交通安全決起大会、9月23、24、27日の神戸ハンドボールアジア地区予選、11月8日の身障者のためのお祭り・社会福祉農業産業祭、そして11月16日の名古屋市南区区民祭りでレインボーホールでの演奏と、スケジュールが盛りだくさん。12月14日には定期演奏会を控えていて、目下大車輪の活躍を展開中。

大同工大のハンドボール応援が、アテネオリンピックアジア予選で

日本代表チームを応援!



西日本学生ハンドボール選手権でハンドボール部員と吹奏楽団が力のもった応援を展開した大同工大の応援が、日本ハンドボール協会からの依頼を受けて、9月23、24、27日に神戸で開催されたアテネオリンピック、ハンドボールアジア地区予選で日本代表チームの応援を引き受け、大同工大のハンドボール応援は一気に全国区へと進化した。

大同工大のハンドボールの応援は、ベンチ入りしないハンドボール部員が試合展開に応じて手拍子と声援で応援するスタイルに、本学吹奏楽団がメロディをつけて作り上げた独自のハンドボール応援方式。東海学生ハンドボールリーグではその応援が轟いていて、大同工大の応援が入った試合では、相手の大学はやりにくいというのが定評。

その見事な応援が日本ハンドボール協会の知るところとなり、神戸で開催されたアテネオリンピックアジア予選の日本代表の応援を大同工大に依頼してきたもの。

大同工大ハンドボールチームを率いて同道した佐藤壮一郎監督(教養部講師)によれば、「神戸ユニバの会場で『日本チームを応援する大同工大の応援に合わせ日本チームの応援をお願いします』というアナウンスが何回もこだました。会場にきた中学生や子供たちの『大きくなったら大同工大でハンドボールをしたい』という声が多く聞かれ、大同工大のいいPRになった」という。

オセアニアカヌーポロ選手権

アンダー21の日本代表で出場し、
見事準優勝!!



玉利 淳君

10月2日から5日までオーストラリア・ブリスベンで開催された2003オーストラリアカヌーポロクラブ選手権に本学の玉利 淳君がアンダー21の日本代表で出場し、ニュージーランドに敗れたものの、見事準優勝に輝いた。

カヌーポロという競技は、2チームが5人ずつでカヌーに乗って相手のゴールにボールを入れて得点を競うゲーム。いうならば、「カヌーで行う水球」のような競技。プールや湖、沼で50メートル×20メートルの水のコースを設定し、1.5メートル×1メートルのゴールを水面2メートルに設置する。

玉利君は、桑名西高校時代から選手として活躍、現在三重県カヌーチーム所属。残念ながら本学にはカヌーポロクラブはなく、練習は毎週末に三好町保田ヶ池で、クラブチームで行っている。

来年2004年8月に、日進市で開催される世界選手権大会にも出場が決まっており、準優勝に終わった悔しさを晴らそうと、練習に励んでいる。



2003 もてぎKART耐久フェスティバル

K-TAI 真夏のカート
耐久レース

大同工大チーム奮戦!



前号でも紹介した大同工大レーシングカート部が、2003もてぎKART耐久フェスティバル「K-TAI」の7時間耐久レースに参加した。

ゼッケン48番、大同工大の文字とデイトちゃんを貼り付けたカートがもてぎレーシングコースを疾走。結果は150台のカートが参加して、116位、98周と善戦。そして26の特別賞のうち、「平均年齢最年少チーム賞」と「がり勉強賞」(ルールテスト第1位)のふたつを獲得した。

チームは、リーダー伊藤君のほか、ドライバーとして田中康裕君、榊原康人君、丸山準平君、横山和彦君、近藤豊君、森川大介君の6人、そしてスタッフとしてカート部4人、自動車部7人、モーターサイクルスポーツクラブ3人のメンバーが参加した。ドライバーの森川君は、不運の事故で足を骨折したためカートに乗れなかったが、炎天下で7時間、立ちっぱなしのサインボード係りを務め、情報伝達係の大役を務めた。

大同工大カート部のK-TAI奮戦記は、JAPAN KART10月号に詳しい。伊藤君は、「来年は自分の新作カートと後輩のkartの2台で出ます。必ずチェッカーフラッグを受けます」と早くも決意を新たにしている。

陸上競技部善戦!

全日本大学駅伝東海地区選考会で5位。
東海学生陸上競技選手権で入賞と自己記録更新と。

9月23日、愛知県三好池周回コースで開催された全日本大学駅伝東海地区選考会で、大同工大チームは出場13校のうち5位。また、10月11、12日に瑞穂陸上競技場で開催された東海学生陸上競技選手権でも、大同工大選手は大健闘。男子1万メートルでは、大和立幸君が32分27秒40で堂々2位。そして3000メートル障害では、荻野秀磨君が5位、道家崇文君が6位にそれぞれ入賞して、新たに購入したハードルによる練習効果が早くも出た。また5000メートルでは、奥野拓君が自己記録を更新して8位、南康次郎君も自己記録を更新した。

手話サークル佐宗享君、 7大学手話サークルサマーキャンプの 実行委員長を務め、中日新聞に掲載される!

大同工大手話サークルは発足して3年。01Dの聾啞者ながら頑張り屋の杉浦貴昭君が、人とのふれあいを願って立ち上げた。その杉浦君と友達になりたい一心で手話サークルに参加したのが佐宗享君。その後手話サークルは現在10人を数えるまでになった。

9月11、12日の両日、刈谷市の洲原公園で開かれた手話サークルキャンプには、大同工大はじめ、愛知教育大、南山大、同朋大など7大学の手話クラブが参加。佐宗君はその実行委員長を務め、新庄和茂君をはじめ手話クラブメンバーも大活躍、大同工大パワーを大いに発揮した。

そのときの写真が、10月7日の中日新聞朝刊に掲載された。佐宗君自身が新聞社に送った写真が採用され、「活写」というコーナーとして短いコメントつきで記事となった。

(前から3列目右端の2人の女性とすぐ後ろの男性3人が大同工大生)



出来立てほやほやクラブ!軟式野球部研究会、 東海リーグで優勝校を破り初勝利!

1年生ばかり16名の野球好きと“物好き”女性マネージャー2名が集まって今年6月発足したばかりの軟式野球部研究会。顧問を探したら、御歳57歳で未だに草野球現役選手の佐々木先生に即決定。更に50の大台目前ながら同じく草野球現役選手の酒造先生をコーチに迎え、東海学生軟式野球連盟、全日本大学軟式野球連盟に加盟。

いざ出陣とばかり8月25日から始まった東海学生軟式野球連盟秋季リーグ戦に参戦したものの、あえなく7連敗。投手力はそこそこでも打力が弱く1割台、エラーで足を引っ張るパターンで負けつづけた。ところが9月29日、7連勝ですでに東海リーグ優勝を決めている中京学院大学を、何と4-2で破る大金星!途端にやる気もどっとわいてきた。なお現在部員とマネージャー募集中。野球経験は一切不問、野球好きなら誰でも大歓迎。インターネットにホームページも公開している。

URL: <http://page.freett.com/zenkokuseiha/index.html>

鍛えれば、必ず道は拓ける!
頑張り期待します!

祈
捲土重来

祝
優勝・昇格

卓球研究会
秋季リーグ第4部優勝!
第3部へ昇格決定。卓球研究会が堂々1
ランクアップ!第4部で優勝し第3部へ昇格。
更なる向上を目指し活躍に期待しよう!

男子バレーボール部
東海リーグ2部へ降格
硬式野球部
東海リーグ第4部へ降格

7月から
10月にかけて

大同工大の各種公開講座、活況。



大同工大社会交流エクステンションセンター
名古屋市南区役所まちづくり推進事業部

連携公開講座

親子ものづくり教室

夏休みが残り10日を切った8月24日曜日、小学生とその親がペアで「ものづくり」を楽しんだ。昨年まで本学が取り組んできた「親子理科教室」を、今年は本学と、南区役所で「ものづくりのまち南区発信事業」を推進している南区まちづくり推進部地域振興課との共催の「親子ものづくり教室」にして、「ものをつくることの楽しさと大切さ」を知ってもらおうと開催した。

「銅版をたたいてつくるミニ小物」、「理科実験『電気振り子』をつくってみよう」、「本格派!アルミでつくるオリジナル置物」、「竹でつくるお茶目な『トンボガエル』」の4つのコースで、午前・午後2回にわたって、延べ49組98名の小学生親子が、ものづくりに挑戦した。

銅版をハンマーでたたいて小物をつくるコースと発泡スチロールで原型を作り溶けたアルミを流し込んで置物をつくるコースは、機械工学科の青山正治教授が担当。プラスチックのカップ、ストロー、永久磁石、画鋸にコイルを巻いた電磁石と乾電池を使って「電気振り子」をつくるコースは、情報学科の愛知久史助教授が担当。そして竹で「トンボガエル」つくるコースは、おもちゃ病院「とんかち」渡辺敏代表が担当。ゴビ・ホールとD棟創造製作センターで、思い思いの小物が親子の手で製作されていた。

終了後に参加者に記入してもらったアンケートでは、「楽しかった」という声がほぼ100%を占めた。「夏休みの宿題ができた」、「先生方が懇切・丁寧でよかった」、「普段できないことが体験できた」といった声に加えて、「親子のできるものをやってほしい」、「手作りのモーターを作りたい」と、早くも来年の希望まで飛び出した。



A 専門講座

機械製図基礎編『図面の見方・読み方』
機械製図応用編『図面の読み方・描き方』

産学連携を力強く推進している本学が、地域産業の振興に貢献するための専門技術講座を開催する活動の一環として、企業の新入社員や生産管理、購買、営業、事務職員を対象にした、機械製図の講座を、7月に基礎編として「図面の見方・読み方」を6回、10月に応用編として「図面の読み方・描き方」の講座を6回、合計12講座を開講した。

講師は、情報機械システム工学科の近藤巖教授が務められた。近藤先生は、愛知県技能検定主席委員や厚生労働省の職業訓練指導員なども担当されていて、熱心に指導された。



B 趣味講座

金属工房『銀のスプーンを作ろう』

こちらは文字通り趣味講座。一般社会人女性を対象に、自分だけのオリジナルの銀のスプーンを造ってもらおうという講座。10月11日と18日の2日間にわたって、D棟創造製作センターで女性達が汗を流した。

まず銚銀と呼ばれる純銀の粒を溶解して塊にする。これを焼いては金槌で打つという鍛金の手法で伸ばしながらスプーンの形を作っていく。これはかなり手間がかかる手法で、1日目は大体スプーンの形ができたところでタイムアップ。2日目は、更に焼いてはたたいてスプーンの形を整え、その上に文様や文字を彫りこんだあと、銀の光沢を出す練磨作業を丁寧に行ってやっと完成した。

講師は、工房カオスの鬼頭正信氏。そして創造製作センターの皆様にもお世話になりました。



みなさんの力作!!

DITを めざして!

ADMISSION OFFICE

2004年

AO入試始まる

遅れに遅れてこの夏初めての猛暑が名古屋にやってきた8月21日、大同工大のAO(アドミッション・オフィス)入試が始まった。本学のAO入試は、受験生をじっくり観察するための「体験授業型AO入試」で、河合塾などが他大学のそれと違って中味が濃いと高く評価している。

まず体験授業は、8月21、22、23日の3日間に8コマの授業が生まれ、各学部学科の教員総出でみっちり行われた。それも一方通行の授業ではなく、実習が随所に組み込まれている。各学科の特色ある講座をあげてみると、機械工学科では未来の自動車、燃料電池、流れのシミュレーション。情報機械システム工学科では、ロボット組み立て、コンピュータによる製図、工作、水観察。

電気電子工学科では、ロボット制御、おもしろ電気実験。建築学科では地震に安全な建物、住まい作り。都市環境デザイン学科では、教室を出て名古屋港をみて都市環境を考える見学ツアーも組みこんだ。情報学部理系情報コースでは、3Dコンピュータグラフィックス、ネットワーク技術。文系情報では、Webサイト作りなど盛りだくさん。

「1日の試験では生徒の適性は見極められない。学科の特色や適性をはかる講座を行って生徒を評価する。困難な課題にどう取り組むかから技術者としてのセンスを判断する」(岩間副学長)というのが本学の体験授業の意義。受験生たちの「科学技術のセンス」や、「適性」などがじっくり調べられる。

今年のAO入試にエントリーしてきた受験生は全部で168名。9月8日に出願許可通知が発想され、9月24日から10月1日までの出願を受け付けた後、10月11日に最終面接試験があり、10月17日には合格発表というスケジュール。



あなたもこの日は、大学生気分...

OPEN CAMPUS
2003 大同工業大学
オープンキャンパス
10.4

2003年10月4日

オープンキャンパス開催

台風のためやむなく中止した夏の分を取り返す!

10月4日、快晴の土曜日、秋のオープンキャンパスが盛大に開催された。午前10時、ゴビ・ホールでの学長挨拶の後、午前中は学科ごとにミニ講義と模擬実験が行われた。模擬実験では、溶解金属で立体物を作る、ロボットを操る、都市型小型風力発電、建物の構造と地震の揺れ、水の流れや構造物の材料の性質、ネットワーク技術、Webコミュニケーションなど、本学の誇る先進の研究成果が各先生方の手で披露された。



学生食堂で大学生の昼食を無料で体験した後、午後は入試対策講座と並行して、「UMEDIQ(ユメディオ)」では、ロボサッカー出場を目指すレゴロボット実演や、DIT生制作映像作品公開、燃料電池自動車やソーラー発電所の展示が、B棟のサテライト会場では、油汚染浄化実験、地盤沈下実験が公開された。出席者は合計で572名、昨年を194名も上回った。

9月6日、7日中日新聞社『私立大学大学展』



本年度2回の中日新聞主宰の「私立大学展」が、名古屋国際会議場のイベントホールで2日間にわたって開催された。

この「私立大学展」は、推薦入試を受験しようとしている学生たちが、お目当ての大学や気になる大学の情報を収集したり説明を聞いたりして、自分の志望大学を決めるための重要なプロセスとなっている。

本学にとっては、この夏のオープンキャンパスが台風10号の影響で中止となったこともあって、この「私立大学展」は例年以上の意味を持っていた。新作の大学案内冊子もフルに活用して受験生のレスポンスを高めようと頑張った。18歳の高校生人口が大幅に減っているため、前年よりは多少減少したものの、大同工大のブースを訪れる高校生は満足できる数字を確保した。普段ならがくと訪問者が減る日曜日の午後にも、訪問者が途切れることがなかった。





企業のインターンシップに
参加学生が大幅増！
単位認可で45名の学生が
企業業務を体験。

本学の軸事業である「産学連携」。学園創設以来培ってきた産業界との太いパイプを生かし、インターンシップを充実するため、今年から、機械工学科、情報機械システム工学科、建築学科の3学科で、インターンシップの単位認定を実施した。こうして、インターンシップを通じて企業で実務体験をしたいという学生が急増、合計45名が、9月から10月初めにかけて2～3週間のインターンシップを体験した。

昨年までの参加者をほぼ倍増させた今年のインターンシップは、産学連携共同研究センターが中心となって、東海地域インターンシップ推進協議会ルートに、愛知中小企業家同友会を通じたマッチングや、産学共同研究などを通じた、本学独自の受入企業開拓の努力が実ったことを示している。そして各学科の先生方や教務室とも連携して、単位認定のインターンシップを今年実行に移した意味でもエポックとなった。

Daido Steel Co. Ltd. Daido Steel Co. Ltd. Daido Steel

ひそかな グルメスポット②

中山うどん そのうどん屋さん、 呼続公園の北隣りにあった。



呼続公園は、北側と西側が狭い生活道路に面している。車が暴走できないように道路の端に小さい木や花を植えた「小型の花壇」が造っており、黄色く舗装されている。

その北側の生活道路になぜか車がずらっと止まっている。「何でこんなところに車がこんなに多く…」と不思議に思ったが、訳はすぐわかった。この「中山うどん」でお昼を食べている人たちの車が列を作っていたのだ。時間はもう1時半を過ぎていているというのに…。

店の外観はお世辞にも美しいとはいえない。サッシの引き違いの戸を開けて店に入ると、これまた美しい店内とはいえない。店の人は全部で4人、みんなおばさん。店内の座席数はおよそ22。満席だ。カウンター内ではおばちゃんたちが大声で「次はこれをつくりその次はこれだ」と、段取りを大声で話し合っている。どう見ても呼吸が合っているとは思えない。むしろパニック状態だ。

カウンターの上には、さばの煮付け、かぼちゃの煮転がし、天ぷら、掻揚げ、串カツ、コロッケが所狭しと皿に盛られている。更に「客席兼物置」となっている奥の細長いテーブルには、おいしそうなり寿司ふたつ入った小皿が8皿あった。定食屋さんでもないのにうどん屋さんになぜこういうメニューがあるのか不思議に思ったが、訳は後でわかることになる。

メニューを見れば、これがまた安い。注文を済ませてからおばちゃんに頼んで店内を撮影させてもらった。するとおばさんが一言。「店の奥がもう一つの入口になっているから見てきてもいいよ」と店の散策を提案してくれる。それではと奥に向かうと、古式ゆかしいうどんをうつ機械が鎮座している。そのすぐ横では天ぷらなべでコロッケをあげている最中。油が煮えたぎっている。そこを通り抜け裏口へ出るサッシドアをあけると、そこには細長い駐車場スペース。呼続公園側にはずらりと車が止まっていたのに、この駐車場にはたった一台しか止まっていない。その駐車場の端は薬師通りに面していて、薬師通3丁目のバス停があった。

店に戻ると、注文したうどんができていた。食べようとするとおばちゃんの解説が入る。うどん足りなかったら1たま、または半たまの追加ができるし、うどんの具がなくなったら、天ぷらを追加して天ぷらうどんや掻揚げうどんにしても良いという。そしてうどんやそばに入れられないなり寿司やさばの煮付けは、小皿として食べるのだという。合点がいった。うどんを追加するか、それとも小皿でメニューを広げるか、お好みでどうぞという訳。追加分もまた安い。

最大の自慢は「カレーうどん」。他の人が注文してきたカレーうどんを見ると、なるほどうまい。自分が注文した「しのだうどん」もこれまたうまい。うどんだけ半分残ったところで掻揚げを追加して掻揚げうどんに変えた。

会計を済ませて店を出るときおばちゃんたちの写真を撮りたいと頼んだら、「それなりに以上に撮ってね」と、昔のフジカラーのCMギャグをつけてOKをくれた。

グルメの店は外観ではない。中山うどんは知っていなければ入るのに躊躇するうどん屋さんだ。だがこの中山うどん、最近テレビで紹介された実績を持つ。おいしくて気安いうどん屋さんだ。鉄道では名鉄名古屋本線桜駅が最寄駅。一番便利なのは、何と言っても薬師通3丁目を通る市バス。バス停が中山うどんの車の少ない駐車場側からの「裏の入口」なのだから。



日刊工業新聞社 名古屋支社 鈴木記者 澤岡学長を取材

2003年7月30日、日刊工業新聞社名古屋支社編集部鈴木記者が、澤岡学長の取材に訪れた。大学も厳しい生き残り競争にさらされている今、大同工大はどういう展望を確立するのかを澤岡学長に語ってもらおうという趣旨。

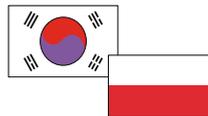
澤岡学長は、「今各大学で喧しく語られている『大学改革』は大方が失敗する。大学改革の本質は、入学してきた学生に『入学してよかった』と思ってもらえるような『大学教育の改革』であり、その根幹は、教員・教師改革が柱である」と強調された。「大同工大は、大学改革の掛け声に浮き足立つことなく、原点に戻ってこの数年間に取り組んできた教育改革を徹底的に進める。日本の大学の現状は、かつて20年前にアメリカの大学がレベルの低下に陥った時と全く同じであり、そのときアメリカの大学が立ち直ったのは、徹底した大学教育の改革であったことに日本の大学は今こそ学ぶべきだ。今は落ち着いて徹底的に教育改革に取り組む」と語られた。

そして、今年新たに制作した「次をつくる人をつくる」という本学の新しいスローガンに触れられ、「私はすでに『次の次』を見ている」と力強く結ばれた。8月25日の日刊工業新聞に掲載された。



澤岡学長、海外二カ国で講演される。

～ 韓国とポーランド～

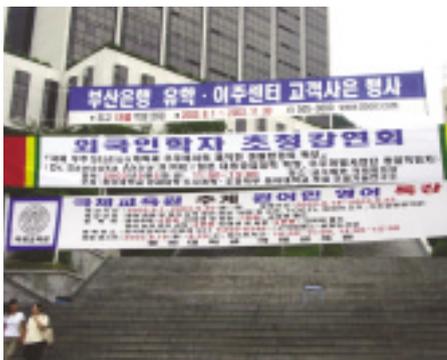


澤岡学長が9月と10月、韓国とポーランドで講演された。韓国では、本学と学術交流提携をしている東亜大学校で、「日本の国際宇宙ステーション計画と宇宙に於けるアメニティ」と題して2時間講演された。講演は学長が英語でされ、韓国語への逐次通訳が行われた。2008年ごろ完成予定の国際宇宙ステーションの紹介を行い、日本の実験室で韓国の研究者と共同研究を行おうと呼びかけられた。

ポーランドでは、10月1日、ポーランド科学アカデミー物理学研究所で、「文部科学省のナノテク研究開発計画」と題して、1時間講演された。講演は英語で、質疑も英語で行われた。澤岡学長は文部科学省のナノテク・材料委員会の主査を務められている。



講演に先立ち訪問された、ワルシャワ工科大学材料科学部長 T.Kulik教授と。



東亜大学が校内に掲げた3つの横断幕で、真中が学長講演会の告知。直訳すると「外国人学者招請講演会」となっている。「日本大同工業大学学長」と紹介しているが、お名前が「澤岡 昭」が、韓国式表記で「澤 岡昭」となっている。

中日新聞社、本学風力発電実験装置取材。

電気電子工学科佐藤義久教授が説明。

10月21日朝刊に掲載



2003年9月9日、中日新聞社社会部の永井記者が、本学の正門に設置されている風力発電実験装置を取材に訪れた。

佐藤先生が東芝時代に開発された縁で、その実験機第一号が東芝エンジニアリングの協力でこの7月17日、本学正門脇に設置され、8月1日以降にダリウス型風車が回転し始め、発電を開始した。

この名古屋地区では初めての装置を中日新聞社が取材に訪れたもの。永井記者は、通信・照明といった家庭の補助電源や街の街路灯、災害時の電源としての可能性、そして普及し始めると生産コストが縮小できることなどについて納得した様子であった。ただこの実験機がまだメーカーの技術実験段階にあることから、普及にはデザインを改良する必要があるなどの課題の指摘を忘れなかった。10月21日火曜日の朝刊に掲載された。

情報学部情報学科浅井淳講師、小学校のPC教室の講師に。

2003年7月29日から31日の3日間、情報学部情報学科浅井淳講師が、瑞穂区高田小学校の先生パソコン教室の講師を務められた。

29日と30日はホームページ作成を、そして31日は小学生の成績表を手軽に便利につくることができるExcelの基礎を教えられた。浅井先生の懇切丁寧な指導に、先生たちは操作がうまく行くと歓声を上げていた。





情報機械システム工学科 西堀賢司教授研究室 サッカーロボット、デモンストレーション開催!

～愛知万博「愛・地球博」出展。ロボサッカー出場に向けて～

西堀先生は、(株)ナガラから依頼された愛知万博「愛・地球博」への出展と、来年5月大阪で開催されるロボットによるサッカー競技「ロボサッカー」(正確には「ロボカップ中型ロボットリーグ」)へ出場を予定されているが、10月31日、本学のUMEDIO(ユメディオ)で、ロボサッカーに出場するロボットのデモンストレーションを開催された。

ロボットに装備された全方位カメラによる360度画像認識と、4輪オムニホイールによる全方向移動の実際の動きを、ゴールキーパーに予定しているロボットの動きで実演。ロボットは全方向に鋭い動きを見せた。

先生によれば、ハードは世界でも最高レベルのものに乗っていて、現在はボールのドリブルとシュート機構を設計中とのこと。ロボサッカーは、リモートコントロールではなく、全てコンピュータ設計に基づき、無線LANによる自律走行で試合をする。一度スタートしたら後は全てロボットの力だけで試合するから、今後のソフトウェアの設計が鍵となる。ロボット本体もこれからボールをける「足」もちゃんと付くそうだ。「ゴールキーパーには手もつけたら如何ですか?」と水を向けると、「そうか、そういう手もあったか」と返ってきた。

情報学部情報学科横山弥生助教授、 SIGGRAPHに2度目の入賞。

シーグラフ

SIGGRAPHは、アメリカコンピューター学会(A-CM)のコンピューターグラフィックス分科会の一つで、最大の規模を誇る。毎年世界中からコンピューターグラフィックス(CG)の作者から作品を募集し、その入賞作を展示し、CG国際会議が開催される。

今年のSIGGRAPH2003は、7月27日から31日まで5日間に亘ってサン・ディエゴで開催され、72カ国から3万人が参加した。横山先生は、アートギャラリー部門に応募され、2001年に続いて見事2回目の入賞を果たされた。先生の作品は、先生独自の回転シンメトリーの手法で「クリスタルボックス(宝石箱)」をイメージしたCGアート。「来年も期待します」と申し上げたら、ニコッと笑って首をかしげられた。



横山弥生助教授デザインの「ものづくりのまち」ビジュアル、 南区役所ものづくりのまち 発信事業のグッズになって登場!

写真は名古屋市南区役所が制作したコースター。中心にあるデザインが横山先生の作品。カラーリングは南区役所が担当。横山先生が回転式シンメトリーの手法でデザインしたもの。今後はコースター以外の様々なグッズに流用される予定。「派手なコースターになりましたね」とは、デザインしたご本人の感想。



トコト先生と
かみおる学生の
コラボレーション!

機械工学科 堀美知郎研究室の学生たちが 英会話の勉強開始!

9月16日水曜日、図書館2階のビデオルームに堀美知郎先生の研究室の学生8名と院生2名が集合して、英会話の勉強をスタートした。毎週火曜日の昼12時30分からみっちり2時間英語漬けでがんばっている。

講師は、シカゴから来られた Linda Gogliotti 先生。写真のように見事な恰幅の女性の先生。とにかく優しい。学生が質問に答えられなくても笑顔を絶やさない。あとは学生のねばりあるのみ。



情報学部三品善昭教授、大石弥幸教授、浅井淳講師が大活躍!

日本音響学会

2003年度秋季研究発表会が本学で開催される。

日本音響学会2003年秋季研究発表大会が、9月17日から19日までの3日間、本学で開催され、延べ1500名の研究者達が参加し、合計514の研究発表があった。

今回の大会は、同学会東海支部設立30周年の節目の年にもあたり、その記念大会が本学で開催されたのは意義深い。今学会では、情報学科の三品先生、大石先生、浅井先生が中心になって大車輪の活躍、成功裏に発表大会を終えることができた。



ゴビ・ホールで開かれた同学会東海支部設立30周年記念式典。

新任教員紹介

機械工学科 鈴木桂輔 助教授

お生まれは広島県福山市。東京の成蹊大学を卒業され、茨城県つくば市の(財)日本自動車研究所に所属され、もっぱら自動車のドライバーと自動車に搭載したIT機器とのインターフェイスの最適化を研究された。

「大学は社会性を身につける所。学生諸君には学内だけでなく社会活動にも大いに参加してほしい」とおっしゃる。趣味は多彩。スキー、写真、旅行、自動車、テニス、スキューバダイビングに陶芸、ジャズ、オーディオ組み立てととどまる所を知らない。「制御工学」と「プログラミング」の講義を担当されている。



4年生、大学院2年生対象の企業説明会を精力的に開催!



就職指導部の尽力で、9月以降2回に亘って企業説明会が本学で開催された。第2回企業説明会は、夏休み真っ只中の9月9日、B棟1階の学生ホールで84社に来学いただいて開催され、152名の就職志望の学生・院生が参加した。そして第3回企業説明会は、10月29日、図書館4階の大会議室に35社に来学いただいて開催され、83名の就職志望の学生が参加。学生を指導されている先生方も、会場にいられて学生達にハッパをかけたり、参加いただいた企業の採用担当者と名刺交換されたりなど、精力的に活動された。

しかし、10月29日の第3回企業説明会前日までに、平成15年度就職内定率は昨年と同じ時点を8ポイント下回っている。

就職活動をより促進するために抜本的対応策を

まず一般常識試験対策の強化を!

今年の就職戦線における各大学に共通している特徴の一つは、求人数が増えているのに内定率がそれに追いついていないことである。この理由を愛知県下のいくつかの大学の就職担当者に尋ねてみると、意外な答えが返ってきた。昨今の大学生が就職活動に失敗するパターンが、3つあるらしい。

- (1) インターネットで就職情報検索や企業説明会参加はしてもそれで活動したと錯覚するパターン。
- (2) 最近各企業が面接試験の前に実施している「一般常識試験」や「SPI試験(適性試験)」の成績が悪くて落ちてしまい、面接試験に到達できないパターン。
- (3) 「一般常識試験」や「SPI試験」に1・2度失敗してしまうと極端に自信を喪失し、企業の採用担当者に電話するのも恐ろしくなり、2・3ヶ月、次の行動に移れないパターン。

(1)の「錯覚パターン」は学生ばかりでなく、親も教員も良く陥る失敗である。毎日、子供が企業説明会に参加していると、親は安心するのが普通である。「企業説明会に出席するのでゼミを休みます」と教員のコンピュータにメールが届くと、教員は「ガンバッテルな」と思う。しかし、面接試験にいたらなければ、就職活動をしているとは言えないのである。とんだところに落とし穴があるというわけ。

(3)の「自信喪失パターン」は、意外に深刻な問題である。意外に深刻というのは、親、教員、就職担当者ばかりでなく友人も、本人がかなり落ち込んでいることを知らずに、とにかく叱咤激励するのみである。すると本人はますます落ち込み、殻に閉じこもってしまうという悪循環に陥る。このような場合、本人の悩みを冷静に理解することから始めるのがコツである。

さて、このような深刻な状態に陥らないようにするには、「一般常識試験」や「SPI試験」に対する対策を事前に講じておくしかない。

本学では、従来から行っている各種直前就職支援講座に加えて、夏前から3年生の「一般常識試験対策」を行っており、来年からはこれを一年生から始めることを検討している。この「一般常識試験」や「SPI試験」を不合格になる学生が本学でも増えているからである。

「一般常識試験」や「SPI試験」は、企業が「学生をふるいにかけるための

試験」であるとともに、「知らないことに学生がどう対応するかを見るための試験」で、学生にとっては「最終の面接試験へ行くための関門」である。これらの試験の問題集は市販されているから簡単に入手できるし、インターネットでも公開(<http://job.mycom.co.jp/>)されているから、学生たちは事前にはできるだけ多くの問題に挑戦すれば必ず能力を高めることができる。

大学では、この無料でできる練習ソフトによる練習を就職ガイダンスで学生に宣伝している。しかし、普及率がなかなか上がらないのが現状である。早いうちからの練習が、就職内定への近道である。大学ばかりでなく、ご家庭からも、是非勤めてほしいことがらである。



開かれた大学 Open College 大同工大を訪れた人たち

7月10日

岡崎市立六つ美北中学校 生徒5名、建築学科見学

職業に関する知識を身につけ、働く人の思いや知恵を知り、将来の進路選択の幅を広げることを目的とした職場見学の一環として建築・土木関係の学科見学に本学を訪れた。

午前10時40分から、建築学科山本俊彦教授の材料及び構造実験室、渡邊慎一講師の標準実験室を見学した後、笠嶋泰教授が図書館を案内。その後本館14階の交流室で笠嶋先生による質疑応答で見学を終えた。

その後数日たってから、見学に訪れた中学生一人一人から、自筆の丁寧な礼状が届いた。使い慣れない本格的な「公式のお礼文」を楷書で書いている生徒たちの姿が目に見えて微笑ましかった。

9月30日

豊橋市立南部中学校生徒5名

高校と就職の間にある大学の学習を体験することで、生徒の進路選択の参考にすることを目的に、具体的には建築・土木系の学科を見学したいと、5名の生徒が本学を訪れた。

午前10時半から、建築学科山本俊彦教授の実験室でミニ講義と実験を体験。昼食後は、都市環境デザイン学科嶋田喜昭講師のミニ講義と測量実習を体験。その後図書館と石井記念体育館を見学して本学訪問を終えた。

先生方の実験や実習には、大いに興味を持ったと生徒たちが口々に感想を漏らしていた。



7月11日

東海市立渡内小学校 PTA 25名、本学見学

大学を訪問して高等教育の理解度を高める目的で、同校のPTAのお母さんたちとPTA副会長、それに校長先生の合計25名が本学を訪れた。

午前10時半から、社会交流エクステンションセンター川戸副センター長のビデオ上映を盛り込んだ講演「CMの裏を読む」を聞いてから、本館14回の食堂で昼食。午後は情報教育センターで福井室長の指導でインターネットを体験し、その後図書館、石井記念体育館を見学して、日程を終えた。「もっとインターネットを時間かけてやりたかった」とは、後日届いたあるお母さんの感想。



10月31日

桑名北高等学校 生徒46名がキャンパス見学

三重交通の大型バスで桑名北高校の受験生46名が、新しくなったキャンパスと施設見学を目的に本学を訪れた。

図書館の4階大会議室で説明を受けた後、図書館やB棟、ゴビ・ホールなどを見学した。本学の入試室スタッフが案内した。



平成15年度 大同工大教育懇談会、9箇所で開催！ ご父母と教員の熱心な個人面談が。

平成15年度の教育懇談会が、9月23日の三重支部、西日本支部を皮切りに、10月25日の尾張支部まで9箇所の会場で行われた。ご父母と教員の個人面談では、一組のご父母20分の持ち時間いっぱいを使って熱心な話し合いが展開された。個人面談の待ち時間には、大学側から、就職、資格取得についての報告とアドバイスや、学長、副学長など大学代表者の講演が行われた。個人面談が終了した後は懇親会が開かれ、先生方とご父母とのリラックスした意見交換や懇親を深めた。

来年もこの時期に開催しますので、ご父母の皆様には、万障繰り合わせの上、振るってご参加くださいますようよろしくお願いいたします。

新刊書出版

建築学科 萩原伸幸助教授



先生が共著で出版されたのは、『計算工学シリーズ2 非線形構造モデルの動的応答と安定性』(コロナ社)。

本書は、モデルは単純であっても複雑な性質を持つ構造物の動的な非線形挙動や安定解析を扱っており、抽象的な理論の解説だけでなく、具体的なベンチモデルによる計算例を示していることが特徴。本書で先生は、第1章「基礎と計算法」(3者共同)と第4章「弾塑性モデルの応答の性質」(単独)を担当執筆されている。

情報機械システム工学科 中村 肇教授



先生が執筆参加されたのは、『化学工学の進歩36、環境調和型エネルギーシステム』(横書店)という15人の研究者と実務者が共同執筆した書で、化学工学会と環境パートナーシップCLUB(EPOC)との共編として発刊された。グローバルなエネルギーシステムの確立と、環境問題の解決に向けた一つの指針として大学院生や現場の技術者に活用されることを目指している。

先生は、第2章2節「伝導・対流伝熱」の執筆を担当されている。

人事

異動

専任事務職員

小林満暁 / 大学事務部就職指導室(主査)

大学事務部社会交流エクステンションセンター事務室(主査待遇) H15.10.1

嘱託職員

西中川保 / 大学事務部学務室白水事務室

大学事務部学務室白水事務室兼産学連携共同研究センター H15.10.1

役職就任

学長補佐

曾我静男 / 任期:H15.10.1~H17.3.31

上田英靖 / 任期:H15.10.1~H16.4.30

水澤富作 / 任期:H15.10.1~H17.3.31

学長付

小野二郎 / 任期:H15.10.1~H17.3.31

川竹敬三 / 任期:H15.10.1~H17.3.31

太田幸一 / 任期:H15.4.1~H16.3.31

大学院研究科長・副研究科長

和田均 / 大学院研究科長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

坂貴 / 大学院副研究科長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

部長・次長

澤岡昭 / 工学部長・情報学部長 / 任期:H15.10.1~H17.3.31

佐々木秀太 / 教養部長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

井上茂樹 / 教務部長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

光田恵 / 教務部次長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

大東憲二 / 学生部長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

原科浩 / 学生部次長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

山田忠比古 / 入試部長 / 任期:H14.5.1~H16.4.30

近藤巖 / 入試部次長 / 任期:H14.5.1~H16.4.30

服部文彦 / 入試部次長 / 任期:H14.5.1~H16.4.30

大嶋和彦 / 入試部次長 / 任期:H14.5.1~H16.4.30

杉浦正勝 / 就職指導部長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

棚橋秀行 / 就職指導部次長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

図書館長及びセンター長・副センター長

伊藤昇一 / 図書館長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

曾我静男 / 授業開発センター長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

関谷昌久 / 授業開発センター副センター長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

渡邊慎一 / 授業開発センター副センター長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

瀬川重男 / 学習支援センター長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

今井健二 / 学習支援センター副センター長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

大石弥幸 / 情報教育センター長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

池田洋一 / 情報教育センター副センター長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

笠嶋泰 / 社会交流エクステンションセンター長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

横山弥生 / 社会交流エクステンションセンター副センター長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

川戸和英 / 社会交流エクステンションセンター副センター長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

岩間三郎 / 産学連携共同研究センター長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

磯川憲二 / 産学連携共同研究センター副センター長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

松浦章裕 / 創造製作センター長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

学科長・専攻長等

松居正夫 / 工学部機械工学科学科長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

中村肇 / 工学部情報機械システム工学科学科長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

坂貴 / 工学部電気電子工学科学科長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

笠嶋泰 / 工学部建築学科学科長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

酒造敏廣 / 工学部都市環境デザイン学科学科長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

国立勉 / 情報学部情報学科学科長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

山内五郎 / 情報学部情報学科コース長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

坂貴 / 大学院工学研究科博士後期課程材料・環境工学専攻専攻長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

青山正治 / 大学院工学研究科修士課程機械工学専攻専攻長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

神保睦子 / 大学院工学研究科修士課程電気・電子工学専攻専攻長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

五島利兵衛 / 大学院工学研究科修士課程建設工学専攻専攻長 / 任期:H15.10.1~H17.9.30

理事

退任 / 野村秀樹(理事・経営企画本部長) / H15.8.29

就任 / 川竹敬三(法人本部総務部長兼経営企画本部副本部長兼学長付兼校長付) / H15.8.30

採用

専任教育職員 / 鈴木桂輔(工学部機械工学科助教授) H15.9.1

経営企画本部

特任職員 / 野村秀樹(特任職員)・経営企画本部長(部長待遇) H15.8.30

編集後記

前号発行以後、大同工大の学生の皆さんと先生方が大活躍され、本号の発行にあたって編集部では、「難しい選択」を迫られました。残念ながら記事によっては、その表現をコンパクトにせざるを得ませんでした。そういう取材をたくさんしたのに、諸々の都合でやむなく割愛、又は縮小したニュースについては、次号でできるだけ取り上げていきたいと考えております。



それぞれの記事の取材を通して感じたのは、大同工大の学生の皆さんが、それぞれに生き生きと取り組んでいることでした。巷間マスコミで言われているように、「何事にも興味を持っていない」、「しらけている」、「すぐキレル」といった学生ではなく、メリハリつけて活動し、しかも仲間と強いパートナーシップを築いている学生さんたちが多いということでした。



もうひとつ強く印象に残ったのは、大同工大の先生方は、「本当にタフだ!」ということ。アクティブ、熱心、ねばり強い、好奇心旺盛、学生のことを親身になって心配しています...これだけ言ってもとても言いきれないほどです。但し、残念なことに、編集部にもニュースを送ってくださる方々が未だ多くありません。「生き生きと活動しつづける大同工大」を学内の到るところから発掘・発信していき、広く支持を得ることが、今とても重要になっています。お声をかけていただければ、必ず取材に行きます。社会交流エクステンションセンターまでご連絡なく、お気軽にご連絡ください。どうぞよろしく申し上げます。

お詫びと訂正本誌前号(No.45、7月25日発行)で下記の間違いがありました。お詫びして訂正いたします。

15ページの「電気電子工学科・堀尾教授大著出版に参加」の見出しで、堀尾先生のお名前が間違っていました。正しくは「堀尾吉己先生」のところ、堀尾義巳と間違っていました。先生には深くお詫び申し上げます。15ページの「電気電子工学科・西村講師照明普及賞受賞」の見出しで、西村先生のお名前が間違っていました。正しくは「西村政信先生」のところ、西村正信と間違っていました。先生には深くお詫び申し上げます。最終16ページの人事の記事中で、入試部次長大嶋和彦助教授の任期が、「平成16年4月30日」のところ、「平成15年9月30日」と誤っていました。川竹敬三法人本部総務部長(部長待遇)兼経営本部副本部長に、「兼学長付兼校長付」が抜け落ちておりました。お詫びします。